

新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮した 大会運営 ガイドライン

《 基本方針 》

- 安全を最優先にする
- 「新しい日常」「新しい生活様式」への適応を行う
- 不当な扱いや差別などの禁止(誹謗中傷を行わない、許さないこと)

1 大会運営に当たって

- (1) 選手、保護者の意向を尊重して、大会の参加を強制しないこと。
- (2) 発熱または体調不良(咳や倦怠感等)がある場合や、健康に不安のある選手(微熱、風邪症状等)は、参加しないよう徹底すること。
- (3) 大会に向けた日頃の練習や練習試合等から当ガイドラインにそった感染予防対策を徹底すること。
- (4) 選手には、免疫力を高めるため、十分な睡眠、バランスの取れた食事を心掛けさせること。

2 三密を避ける取り組み

- (1) 大会会場(体育館)に入場できるチームの人数を制限する。
 - ①大会会場(体育館)に入場できる関係者は以下とする。
 - ・選手15名(登録された選手のみ)
 - ・チーム関係者4名(Hコーチ Aコーチ マネージャー チーム責任者)
 - ・基本的に保護者の観戦は15名以下とするが、感染の状況または各市町村体育館を管理する団体のガイドラインによって制限または緩和される場合がある。
(大会前日までに人数は周知する) ※保護者はギャラリーからの観戦とする。
 - (2) 試合間で選手及びチーム関係者を入れ替える為、試合間を20分程度空ける。
 - ①試合が終了した選手及びチーム関係者が大会会場(体育館)から全員、出て消毒が終了したら次の試合の選手及びチーム関係者が大会会場(体育館)に入るようにする。
 - (3) ギャラリーで観戦する保護者はソーシャルディスタンス(両手を広げた間隔)を心がける。
※大きな声を出しての観戦は禁止とする。(飛沫の防止の為)

3 検温及び健康観察について

- (1) 大会の日の朝、必ず検温及び健康観察を行う。
 - ・熱はないか
 - ・咳や鼻水などの風邪症状はないか
 - ・強いだるさや頭痛はないか
 - ・息苦しさはないか※熱や風邪症状がある選手やチーム関係者の大会参加、観戦は認めない。
- (2) 検温後は体温を健康チェックシートに記入する。(別紙参照)
- (3) 「健康チェックシート」は朝のミーティングで提出を行う。(毎日提出を行う)
- (4) ベンチ入りするスタッフ(4名)及び観戦する保護者は、ネームタグ等を行うこと。
※タグは各チームで準備する。
※タグをしていないと観戦を認めない。
- (5) 大会会場入りの後に発熱症状等、体調不良の選手は帰宅する。
- (6) 大会終了後、帰宅後も検温及び健康観察を行い記録をしておくこと。
- (7) チーム関係者(保護者も含む)及び大会関係者等、体育館へ入場するすべての者は、2週間前から健康チェックを行い、記録しておくこと。

4 手洗いうがい・消毒について

- (1) 体育館の入館前と体育館退館後は手洗いうがい・消毒を行う。
- (2) ワンプッシュ泡石けん、消毒液等は各チームで必ず準備する。
- (3) 手洗い後の手をふくタオルは共用しないこと。
- (4) 消毒を行う箇所担当の分担をしておくこと。(参加者全員で作業に取り組めるようにする)
 - ベンチ;試合で使ったチーム
 - TO席;TOを行ったチームの選手及び保護者(大会役員)
 - 本部席;大会役員
 - ギャラリー;観戦したチームの保護者

5 マスク等について

- (1) 基本的にマスクを会場入りから帰宅まで全員、着用すること。
- (2) 試合前の練習はマスクを外す。
- (3) 試合中はマスクは外す。
- (4) 試合に出ない選手及びベンチ入りするチーム関係者はマスクを着用する。
- (5) 外したマスクは清潔に保つようにする。(個別に袋等を用意して入れる。)
- (6) マスク着用時も水分補給をこまめに行う。

6 試合中の注意事項

- (1) 試合前の声出しや円陣はおこなわない。また、ハイタッチも行わない。
- (2) 試合前及び試合終了後の握手はおこなわない。(試合後のキャプテンのあいさつもなし)
- (3) ベンチのメンバーはソーシャルディスタンスを意識する。
- (4) タオルや飲み物用のコップの共用はしない。(各自で用意)
- (5) マスクを外しての指示やアピール等を行わない。(飛沫防止の為)
- (6) マスクを着用しても大きな声を出してのコーチングや応援は行わない。(飛沫防止の為)

7 大会前の対応について

- (1) 県連盟及び参加チームはそれぞれ感染対策責任者(担当者)を設置し、事前・大会実施・事後にお互いが連絡を取り合える環境を構築すること。
※県連盟は県連盟理事長を感染対策責任者とする。
※大会申込書に記載のあるチーム責任者を感染対策責任者とする。
- (2) 県連盟は、参加チームの連絡先を管理すること。
※個人情報保護法のルールに則って適切に管理を行う。
- (3) 大会関係者は、新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCONA)のダウンロードを推奨する。
- (4) 大会2週間前から各チームは健康チェックを徹底すること。また、大会2日前(48時間前)からは発症があった場合の感染リスクが高まるため、各チーム内での健康チェックを徹底すること。

8 その他

- (1) 常時窓を開けて換気を行う。雨天時はハーフタイム及び試合間におこなう。
- (2) 控え場所やミーティングの際には三密にならないように行う。
- (3) 個人用の水筒を準備する。(1試合もつ分準備をする。)
- (4) 大会期間中に気分が悪くなる選手は保護者へ連絡し帰宅させる。
(保護者が迎えに来るまでの控え場所は他の児童と距離を置くこと)
- (5) 試合終了後、自チームが感染したギャラリーの手すり等は消毒液を使って消毒する。
- (6) 大会終了後、自チームの控え場所は消毒液を使って消毒をしてから帰宅する。
- (7) 会場校接待は、飲み物のみ準備する。
- (8) 体育館外(窓の外等)からの観戦については、ソーシャルディスタンスの範囲内で認めるが、守れない場合は禁止とする。
- (9) 密にならないよう、試合終了後の入れ替えは順番決めて行う。(大会本部の指示)
- (10) 陽性者・濃厚接触者がチーム内で出た場合は、大会主催感染対策責任者(県連盟理事長)へチーム状況の報告を行い、大会参加可否等について協議する。
※JBAガイドライン(第2版)36P~37P参照
- (11) 大会に参加しているチームの学校が臨時休校となる場合は、感染対策責任者(チーム責任者)と大会主催感染対策責任者(県連盟理事長)で参加の可否を協議する。
- (12) 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、速やかに大会主催感染対策責任者(地区理事長)に報告し、指示を仰ぐようにする。
※発症から過去2週間の検温を確認する場合がある。
- (13) チーム事情により大会に参加できないチームが多数ある場合は大会開催するか再度検討する。

参考資料

- JBA「バスケットボール活動再開に向けたガイドライン(第2版)」
- 沖縄県警戒レベルの判断基準